

3つの分類システムにおける妊婦の肥満区分と日本の肥満妊婦の転帰：単一施設での後向き研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉村, 亮, 幸村, 友季子, 成味, 恵, 磯村, 直美, 小田, 智昭, 田村, 直顕, 内田, 季之, 鈴木, 一有, 杉村, 基, 金山, 尚裕, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004032

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 1>

3つの分類システムにおける妊婦の肥満区分と日本の肥満妊婦の転帰：単一施設での後向き研究

1 磐田市立総合病院産婦人科 2 浜松医科大学産婦人科、

杉村 亮

幸村友季子²、成味恵²、磯村直美²、小田智昭²、田村直顕²、内田季之²、鈴木一有²、杉村基²、金山尚裕²、伊東宏晃²

【目的】日本において2020年3月以前は、妊娠前のBMI25以上の場合、妊婦は肥満と定義されていた。しかしながら、その肥満の定義は、Institute of Medicine (IOM) や American College of Obstetricians and Gynecologists (ACOG) の区分とは異なっている。今回、各肥満区分システムの評価を目的として、日本、IOM、ACOGにおける肥満区分において各々の周産期予後を比較した。

【方法】2010年から2019年の間に当院で出産した6,066人の日本人の単胎妊婦を対象に後方視的コホート研究を行った。妊娠高血圧（以下HDP）、妊娠糖尿病（以下GDM）発症リスクにつき、普通体格妊婦を対照として、Logistic回帰解析法を用いて、Odds比（以下OR）を算出し、比較検討した。

【結果】日本の妊婦の2021年3月以前の肥満区分によると、668人(11%)の妊婦が肥満(妊娠前BMI \geq 25)に分類され、ORはHDP(3.32)、GDM(3.39)、LGA(2.91)、帝王切開分娩(1.47)であった。IOMの区分によると、過体重(妊娠前BMI25.0-29.9)は474人(7.8%)、肥満(妊娠前BMI \geq 30)は194人(3.1%)であった。特にHDP(1.23, 5.85)およびGDM(2.48, 5.0)について、肥満妊婦で高いORが観察された。ACOGの区分では、474(7.8%)の妊婦が過体重(妊娠前BMI25.0-29.9)、141(2.3%)が肥満クラスI(妊娠前BMI30-34.9)、41(0.6%)が肥満クラスII(妊娠前BMI35.0-39.9)、12(0.2%)が肥満クラスIII(妊娠前BMI \geq 40)に分類された。肥満クラスIIIでは、HDP(12.89)とGDM(8.37)、LGAでORは有意に上昇していた。

【結論】HDP、GDM発症に関して、2021年3月以前の日本の妊婦の肥満区分は、低リスク妊娠の評価には役立つ。IOMの区分は高リスク妊娠を識別するために適用されうる。ACOGの区分は、特に肥満クラスIIIには該当する妊婦は少数であり、十分な評価とは言えないが、将来日本において肥満が増加した場合、日本人妊婦のHDPおよびGDM発症リスクの段階的評価に役立つ可能性がある。